

函館山に雲がかかると天気は下り坂（観天望気）

NHKの朝のドラマ「おかえりモネ」が5月17日にスタートしています。このドラマは気象予報士をめざすモネさんのドラマです。舞台は2011年3月11日の津波で大きな被害を受けた気仙沼市と気仙沼市に隣接する緑豊かな田園が広がる登米（とめ）市です。モネさんが生まれたのは、1995年の11月。阪神・淡路大震災が起きた年でもあります。主人



<虹色に染まる彩雲>

公の生き方に大きな影響を与えたのは、津波や地震などの自然災害、そして三陸地方の豊かな海や森などの自然環境と思われます。番組の最後に天気のことわざである「観天望気」の紹介コーナーがあり、左の写真にある「彩雲」という縁起の良い雲も紹介されています。朝起きて、テレビやスマホで天気予報を知るのも大事ですが、外に出て孔明のように風を読んでみてはいかがでしょうか。

☆ 5月と6月の活動報告 ☆

令和3年の議案書の活動計画に基づいて、新たな活動が行われています。運営会議は定期的に毎月第2週目の月曜日、午後5時30分から市役所で開催されています。時には笑いもあり、活発な意見交換がなされています。今回は事務局2名を含めて13名の方が参加した大野地区のフィールドワークと教育委員会が主催する高齢者大学での防災講座について報告をいたします。高齢者大学は浜分ふれあいセンター、公民館、総合文化センターの3か所で行われていて、今回の防災講座は講師として高橋さんと上野が担当しました。

北斗市防災連絡会議「大野地区」でのフィールドワークに参加

坂井 修 さん（北斗市本町）

私は、歩くのが好きで毎朝ウォーキングをしています。毎日通っている所に、向野活断層があり、大野川の右岸にある露頭（断層地形）を観察できた事にビックリしたと同時に、こんな身近な所で見られる事に感激しました。道南農業試験場敷地内（果樹園跡地）では、1995年に活断層の調査が行われ、土地がせめぎ合って盛り上がり形成された高台（観音山）になった状況が調査時の写真や貴重な資料を基に、わかりやすく説明をして頂きました。

地球の地殻変動や火山の噴火等による地層の成り立ち、想像もつかない年月（数千年・数万年）の流れの中で自然の偉大さと脅威を垣間見る事ができ大変有意義な研修会でした。また、このような途轍もない研究をされている先生皆様のご努力にも感銘致しました。

多少なりとも、北斗市の地層の成り立ちを知ることができました。知人にも大野川の断層地形を案内したいと思いつくと同時に、普段からの自然災害に対する防災対策が重要であることを改めて痛感致しました。



＜1995年のトレンチ調査の場所での説明＞

最後に、この観察会を企画、準備して頂いた関係者の皆様と、当日ご案内、ご説明をいただいた紀藤典夫先生に心より感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

紀藤典夫先生（北海道教育大学函館校地質学教授）からのメール紹介

久しぶりに現地を訪れましたが、改めて立派な地形であることを確認しました。みなさん、たいへん熱心に話を聞いていただき、説明のしがいがありました。お役に立っていただければ幸いです。地層の剥ぎ取り標本の作製方法、例えば下記のHPをご覧ください。
<http://www.mus-nh.city.osaka.jp/nakajo/hagitori.html>
縄文文化交流センターには、戸井貝塚と大船遺跡の土層の剥ぎ取り標本が展示してあります。どんなものか、ご覧になるのも参考になるかと思えます。お土産もいただきまして、誠に恐縮です。

※フィールドワークの準備、現地での草刈りなど、事務局の方々に礼申し上げます。

つげる高齢者大学防災講座・浜分地区

菱田繁樹さん（代表）

北斗市防災連絡会議の昨年度の活動計画のひとつに、浜分地区での合同防災避難訓練を掲げました。しかし、世界中で今なお、新型コロナウイルス感染症の収束が見えず、東京オリンピックの開催にまで影響を与えております。地域住民も毎日、マスク着用、手洗い消毒などを行い不要の外出の自粛に努めております。

このような状況の中、昨年は、浜分地区町会連絡協議会の会議に出席し、町内会合同による防災訓練実施のお願いをさせていただき、防災に関して協力できる体制がつくられてきております。また、今年は、北斗市防災連絡会議事務局からの提案を受けて、自主防災組織の結成率の向上を目指す取り組みを進めておるところです。

一方、北斗市防災連絡会議は、上野代表を中心とし、北斗市教育委員会主催の高齢者大学での防災講座を企画し、5月26日 浜分ふれあいセンターを会場に浜分ふれあい大学の会員50名の出席をいただき、開催致しました。スタートは、北斗市防災連絡会議の高橋代表

のあいさつから始まりました。次に、パワーポイントの映像画面は、北斗市防災連絡会議の防災講座と題し、今 NHK で放映されている朝のドラマ“おかえりモネ”の話から始まり、また、NHKの朝ドラで紹介された縁起の良い雲とされる「彩雲」の写真を取り入れるなど、NHKの番組を宣伝するかのようにも思われました。でも、「彩雲」の写真を紹介したのは、参加の皆さんにも良いことが起きますようにという願いから、また、天気のことわざと言われる「観天望気」の説明をするために、この写真を紹介したようです。

さっそく、自分たちが住んでいる浜分地区の災害リスクに触れ、洞爺丸事件、液状化、石油タンク火災など身近な映像も写しだされ、液状化の実験映像では、地下から地面を押し上げ、水が吹き出し、水道管が破裂した状況と似ており、皆頷いていました。気分転換を図るようワークシートを使い、「ふれあいセンターで大津波警報が出たらどうしますか?」、「誰と避難するか決めてありますか?」また、避難時に、避難しようとしめない祖母と避難をうながす孫の会話の場面を設定し、お孫さんにどのような言葉をかけられたら、祖母が避難しようという気持ちになるかを考えさせました。この後、休憩時間をとり、後半では、漫画の「サザエさん」から学ぶ防災、避難の準備と避難行動について等を講話し長時間にわたっての講座が終了しました。

出席者誰ひとり、居眠りすることなく有意義な防災講座でした。今後は、浜分地区高齢者大学で企画したことが、ひとつひとつ実を結ぶものと思います。

良い経験となった高齢者大学防災講座

高橋悦郎さん（代表）

6月15日（火）大野公民館でのせせらぎ大学で講師を担当しました。私に与えられた約60分の時間配分、前もって3つのことをお話ししようと、念入りに原稿を作って本番に臨みました。1つ目は、この10年間に道南で発生した地震、津波等の自然災害についてであります。特に津波についてお話をしましたが、大野地区の土地柄か、津波には関心が薄いように感じられました。

2つ目は、自助、共助、公助に於ける自助と共助についてお話をしました。家に居て地震等があった場合、自分の身を守るためにどうすべきか、就寝中または外出中、例を挙げてお話をしました。3つ目、最後のローリングストックに代わる家庭内での備蓄リストにつ



いて。聴講者の多くが家庭の主婦だったせいも、私の作成した一覧表を基にした説明では、特に水（飲料・調理用）の使用期限について、ラテックス手袋の利用方法、水洗トイレの使い方等の説明では、熱心にメモを取りながら聞いている方も見られ、その姿勢に関心の高さを伺うことができました。私自身もよい勉強になり、感謝いたします。

写真）高橋さん・・・浜分ふれあい大学での防災講座（5月26日）

高齢者大学でのアンケートを実施

せせらぎ大学ときらめき大学で簡単なアンケート調査（複数回答）を実施しました。

せせらぎ大学では「心配される自然災害」の1位地震、2位大野川の氾濫、3位駒ヶ岳の噴火、土砂災害0、何も心配ないという方も1名おられました。きらめき大学では「心配される自然災害」として、1位地震と2位津波（この二つで全体の80%）、3位河川の氾濫と続きます。また、「大津波時の避難先はどこですか」という問いでは1位高規格道路の避難場所（60%）、2位津波避難ビル（20%）。わからないと回答した方が20%でした。

防災講座の感想は13名の方からいただきました。「ありきたりの防災講座でなく楽しく学ばせていただいた、大変ためになった、防災に対する考え方が変わった」など、うれしい感想を寄せていただきました。ご参加の皆様と教育委員会の橋場さんに感謝申し上げます。

NHKの取材を受ける北斗市防災連絡会議（6月25日）

道は令和2年4月の内閣府が発表した新たな津波浸水想定を受けて、平成24年に発表した道の想定を見直し、6月24日に道は防災会議地震専門委員会の会合で、新たな津波浸水想定を公表した。それによると北斗市の津波の高さは8.6m、新たに追分地区が浸水範囲に入るなど北斗市でも浸水範囲拡大が見られることから、NHKは北斗市に取材を申し込んだようである。

ご存知のように、防災連絡会議では昨年の総会で、浜分地区を防災の重点地域とし、事務局との合同の浜分地区でのフィールドワークを実施、また、浜分地区町会連絡協議会の会合に参加をし、菱田代表が合同防災訓練の要請を行っています。今年も継続して浜分地区を重点地域と考え、避難困難地域の避難について具体的な提案をしたいと思っています。

今回のNHKの取材を通じてまさに、議案書の中に浜分地区を防災の重点地区とした判断の正しさが証明されたものと思います。道の7月中旬予定の浸水範囲についての公式発表を待って、事務局に協力し、新たな課題解決に向けた活動を展開していきたいと思っています。

防災メモ

震源地が北海道中央部なのに青森で最大震度3とは？

6月20日20時8分頃、青森県で最大震度3を観測する地震があり、震源地は上川地方中部で、震源の深さは約160km。「異常震域」と呼ばれる震度分布がみられ、震央から遠く離れた青森県で最大震度3が観測されました。深発地震とは一般に深さ100キロメートルよりも深いところで発生する地震のことを指し、直下型地震やプレート型地震とは発生のメカニズムが異なるそうです。

事務局 北斗市総務部総務課交通防災係

電話 73-3111(内線212) Fax 73-6970 メール bosai@city.hokuto.hokkaido.jp